

# 農業

## 自然を生かした農業は、 かけがえのない“水資源”から



1995年12月、散水式を終え、本格的な  
灌漑事業がスタートした長浜ダム



平張防風施設



ハーベスターによるさとうきびの収穫



## 畜産

本村の畜産業は畜牛、養豚が主体をなし繁殖経営による生産地域として知られています。

また山羊、採卵鶏、養蜂等も営まれており、山羊については紅イモかづらを利用した飼養が見られます。

さらに消費者に安全・安心な畜産物を供給するとともに、有機農業の基本である土づくりに貢献しています。一方、配合飼料の価格の上昇や、燃料の高騰、産地間競争の激化等の状況の中、品質・資質の向上に向け、優良種畜の導入や畜産技術指導を、農協や他の関係機関等と連携しながら取り組んでいます。



畜産まつり



読谷村特産の紅イモ  
甘藷（拠点産地認定 平成16年）

**魅力と活力ある農業**

本村の農業は、さとうきび、紅イモ、菊が作付け面積の上位を占めています。その中でさとうきびは減少傾向にあり、代わって小菊の作付けが拡大しています。粗生産額で見ると、一九九二年には小菊がさとうきびを追い越しました。野菜ではピーマンに代わりゴーヤーやニンジンが伸びています。

農業は地域社会の発展と人間の生活を支える基本的な産業であり、その基盤整備は着々と進められています。また、施設整備においては、ビニールハウスや平張防風施設等を整備して台風等の気象条件に左右されずに農業が営まれるなど計画的な農業経営が確立されつつあります。一方、農業生産の担い手である認定農業者を中心に地域農業の組織化や施設園芸、さらに後継者の育成のために国が創出した、支援制度を積極的に活用できるように担い手農家の支援を進めています。

また、土地改良事業等の農業生産基盤や沖縄本島内最大の農業用ダムである長浜ダムを基点とした灌漑排水が土地改良と共に整備されるなど効率的に農業を営む環境が整いました。農業用水の確保により、読谷村の銘柄として定着している紅イモや小菊、ニンジンの産地形成をはじめ、新たな作目の開発誘導に明るい展望が開けつつあります。特に、紅イモは老舗洋菓子店などの飛躍でイモ需要が増加していることから、紅イモ産地協議会を中心に関係機関が連携を密



平張防風施設で安定して栽培される  
小菊（拠点産地認定 平成14年）

にし、紅イモの増産や品質の向上などの対策をさらに進めていきます。さらに、平成十八年に返還された読谷補助飛行跡地には、先進農業集団地区の整備を進めるとともに、ファミリーズマーケットや集出荷貯蔵施設等の生産・流通・販売の拠点が完成するなど今後が期待されています。



近年収穫量が増加している読谷産ニンジン



## 知・産・地・笑

読谷村は住民が【知】恵を出し合い、商品を【産】み出すことで、【地】元が盛り上がり、【笑】顔が満ちあふれた地域になるの思いを込めて、村、農協、漁協など食品に関わる企業・団体の方が一体となって、地元産品を活用した特産品の開発を進めています。農作物を使用した特産品としては、御菓子御殿の紅いもタルトをはじめとして、冬瓜を使用した「とうがんパイ」と「カレーになりたいたうがんくん」、あかね芋を使用した「あかねロール」などを開発しました。